

2015 vol.41

UJR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

PRESS



特集

つながるひろがる

復興するまちを訪ねて

Special
Interview

この先に待っている
東北の未来に向かって
一緒に進んでいきたい

AKB48



CONTENTS

01 まちの記憶 ④ 「町の明かり」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす ④

AKB48

この先に待っている
東北の未来に向かって
一緒に進んでいきたい



09

特集

つながる ひろがる

復興するまちを訪ねて

- 11 宮城県 女川町
生まれたばかりの新しい「まち」に希望の一步がしるされた日
- 14 宮城県 東松島市
5月30日に仙石線が開通 1日も早く、高台にまちをつくる
- 15 岩手県 大槌町 山田町 陸前高田市 大船渡市
それぞれの思いを胸に踏み出す新たな一歩
- 17 福島県 いわき市
待望の仮設商店街「とよマルシェ」が誕生。地域住民の希望の光に!
- 19 UR都市機構が取り組む復興支援MAP2015
- 21 兵庫県 芦屋市
その未来は東北にもいずれやってくる
- 22 東北へ行こう!

23 URのまち あのみち・このまち・歩いてみよう! その②

あすと長町(宮城県仙台市)

25 ベランダ菜園の楽しみ ④ たなかやすこ

おひさまが何より好きなミニトマト

26 人気プロガーの団地DIY術 ④ Makees

ふすまを取り払って開放感あふれるリビングに

世界の扉を開く本 ④ 三田修平

テーマ▶東北再発見

27 プレゼント付きクロスワードパズル

28 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.41
2015年4月30日発行

発行 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
Tel 045-650-0892 Fax 045-650-0889

制作 日本経済社
編集協力 新潮社、編集室りっか
デザイン 太田デザイン事務所
印刷 凸版印刷
※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。
※本文中の肩書きは取材時のものです。

表紙の世界

あたたかな太陽の光を
ギュッと集めたような、
タンポポの花。
震災の後の大地に生きる人々が
しっかり根を張り、あたたかく
笑えますようにと願いを込めて、
この花を描きました。

イラストレーション・小林マキ



栄養とはまたべつの、私たちを生かす力となるのかもしれない。
車に乗って移動中、窓からある看板を見つけた。雪の積もった空き
 地に、手書きの看板が立っている。「ご支援あ
 りがとうございます。いつかかならず恩返しいたします。」「ご支援あ
 そこには書かれていた。その気遣いに、胸に明かりが灯ったような気持ちになった。
 この空き地にもいつかまたふたたび家は建ち、今は何もない空間を、人々はまた自分
 たちの町を、暮らしを取り戻す日がくる。自分にできることをさがしてその日を待ちつ
 つ、でも一方で、この旅で見た町の景色は、私の内に残り続けるだろうと思う。灯りは
 じめた明かりや、雪の空き地に立つ、心のこもった看板は。



かくた・みつよ
 作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。『対岸の彼女』(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は「今日も一日きみを見てた」(角川書店)。

町の明かり



二〇一一年の四月、

東日本大震災の一月後に、新聞記者とともに三陸地方を旅した。その光景を見て、新聞

に記事を書いてほしいという依頼を受けたのである。そうすることにひどく戸惑いながらも、承諾し、震災がめちゃくちゃな傷を残した町を、ただ杲然と歩いてまわった。その同じ道程を、二〇一三年の冬もまた、旅した。その年はずっと雪が降っていて、かつて見た町並み——町並みがあった場所——は、真っ白に染まっていた。二〇一一年は、崩れた家と生活の欠片がひしめいていたが、それらはすでに撤去されたのだという

はつきりと

「町が変わった」と思ったのは、釜石の夜である。凍った車道を車で慎重に走り、宿を目指しながら、暗い町並みのそここに明かりが灯っている。それがはつきりと、二〇一一年と違う。飲食店の明かりである。そんなにこうこうとしているわけではない。けれど、真つ暗だった二〇一一年と比べると、ものすごい変化のように私には思えた。

宿に荷物を置いて、呑ん兵衛横丁に向かった。かつてあったところから場所を移して、仮設店舗で飲み屋街は営業している。通路を挟んでひしめく店から明かりが漏れて、降る雪を浮かび上がらせている。どの店も大賑わいだった。やっと入れる店を見つけて腰を下ろした。自分でも驚くぐらい、ほっとした。飲み屋があつて、営業していて、仕事を終えて、さあ飲める、ということに。

その後になまった気仙沼、女川でも、仮設店舗で営業している屋台街、飲食街、市場がよくあった。立ち寄ると、どこも活気があった。あるいは、私の目はそういう店や、店の明かりばかり、さがしていたのかもしれない。飲食を扱う店が戻ってきて、活気がある、ということ、本気で町が立ち上がったということのように、私には思えるのだ。その土地のものを食べることに、飲むことに、集って酒を酌み交わすこと。そうしたことが、

Karen Iwata
岩田華怜さん



Minami Takahashi
高橋みなみさん

Mako Kojima
小嶋真子さん

AKB48

この先に待っている

東北の未来に向かって 一緒に進んでいきたい

震災直後から東北地方を訪れ、現地の方々と笑顔や元気を分かち合う活動を続けているAKB48。アイドルグループとして復興支援に取り組むメンバーに、お話をうかがいました。

「誰かのために」と被災地を訪問

— 東日本大震災から4年。AKB48の皆さんは、ずっと復興支援の活動をされています。

高橋みなみ(以下、高橋) 「誰かのために」プロジェクトという名称で、震災直後から月に一度、メンバー5、6人ずつの編成で被災地でライブをしたり、握手会で触れ合ったり、昨年からは被災地の特産品やおいしいものを食べて発信する活動もしています。

プロジェクト名の由来は、私たちの『誰かのために』という楽曲のなかに、誰かのために人は生きてる。私に何ができるので

しょう」という歌詞があって、それにちなんでつけたものです。プロジェクトは、どんなふう

に始まったんですか？
高橋 震災が起きたときは事が大きすぎて、どうしていいのかわからなかったのですが、秋元康さんをはじめとする大人の方々が、「しっかりとこの事実に向ち向かっていこう、私たちがもできることがあるだろう」と

一歩踏み出してくださいました。そこで、私たちも行動できました。
岩田華怜(以下、岩田) 私は仙台出身なんですけど、震災があったときはちょうどAKB48の最終オーディションが控えていて、こんな状況でふるさとから出るわけにいかないし、あきらめよ

うと思いました。そんななかで、AKB48が被災地のための活動を始めているのを聞き、やっぱりこのグループに入りたいと思って。スタッフさんに「待ってるから、絶対オーディション受けないさい」と言っていたいたことが、今につながっています。

— 震災のときは、どんな様子だったんですか？
岩田 私は仙台市の中心部だったので津波の影響はなかったんですが、当時はコンビニにも誰もいないし商品もない、倒れた建物もそのまま。違う世界、違う国に来てしまったようで、「もう、自分のふるさとはないんだ」

って感じたのを覚えています。
高橋 私は震災1カ月後に現地

に行き、大きな衝撃を受けました。バスを7時間くらい乗り継いで、倒壊した建物の間を縫って海沿いを通ったんですが、人が住んでいたまちがなくなり、住んでいたであろう建物に撤去するためのバツ印がついていた

りして、受け止めるのが難しいというか、言葉も出なかったです。真子は、当時中学生だったんです。
小嶋真子(以下、小嶋) ちょうど中学校にいるときに地震が来て、校庭に避難したら昇降口の窓が割れていて。東京にいる私たちでもこんなに怖いものだから、東北の皆さんは本当に怖い思いをしているだろうなと思いました。そのあと、AKB48が被災地活動をしているのを知って、ヒーローみたいになりました。まさか、自分がAKB48に入って東北を回り、同じ活動をするなんて、そのときは思ってもみませんでした。

トラックでのライブやバスの寄贈なども

— 「誰かのために」プロジェクトは、AKB48の皆さんの自主的な意志を感じます。

高橋 いままでこそ体育館や市民ホールを借りてミニライブなどを行っていますが、最初の頃はライブトラックの上でライブをすることも多かったですね。それでも、小さなお子さんがキラキラした目で見てくださったたり、皆さんが笑顔になってくれるのが、とてもうれしかったです。クリスマスには、スタッフがサントアの格好をしたり、本当に手作り感あふれる感じでやっています。

—高橋さんは、総監督として「みんなを引っ張って行こう」という感じだったんですか？

高橋 私が「行くぞ」と言うよりも、メンバーのみんなが前向きに「その場所へ行こう」「行けてよかった」と言っています。最初のうちは、東京にいるメンバーは何が起きているのかわからなかったのですが、行った子たちが状況を話してくれて、それがみんなに広まって一つの輪が生まれた感じでした。

私たちの復興支援ソング『掌が語ること』でも、みんなで手を取りあいさえすればなんでもできる、という意味の歌詞がある

るのですが、そうした仲間がいるのはとても心強かったですし、このグループでよかったなと心から思っています。

—被災地に行くと、AKB48の皆さんのサイン色紙がいろんなところに飾ってあったり、寄贈したピンク色のラッピングバスをよく見かけます。

高橋 私たちが何かをしたり、ライブで「がんばりましょう」などと励ますよりも、逆に「あり

私たちが東北に行って体験していることを伝えなければ



Karen Iwata

いわた・かれん
1998年生まれ、宮城県仙台市出身。
2011年、第12期研究生オーディションに合格、
12年正規メンバーに。
仙台市の自宅が被災し、
しばらく避難所生活を送った経験をもつ。

がとう」と言われる言葉のほうが大きくて。だからこそ、心から東北の皆さんに会いに行きたいし、皆さんのお人柄に触れに行っているという気持ちのほうが強いですね。

小嶋 私も現地に行くたびに、東北の方々は本当に強くて、格好いなと思います。自分たちが元気を届けに行っているつもりが、いつも元気をいただいています。

支援活動を通して笑顔と元気を届けたい

—4年間の支援活動のなかで、思い出に残っていることは？

高橋 初めて行ったときに、まだ避難生活をしている方がいらつしやる体育館におじゃましたんですが、小さな男の子がボールを投げてきて、メンバーと一緒にキャッチ言いながら走り回って遊んだんです。そうしたから、周りの方が「震災が起きてから全然笑わなかったのに、久しぶりに笑ったのを見た」と驚いて。そのお子さんに少しでも笑顔が戻ったのがうれしかったですね。

岩田 震災から半年後、AKB48として初めて岩手県陸前高田市に行ったときです。雨のなか、ライブトラックの上でライブしたあとでハイタッチ会をしたら、「手、あったかいね」と言われたんです。それを聞いたとき、なぜか泣きそうになってしまった。寒いなか何時間も待っていてくれた皆さんは、体も手も冷えきってたし、私たちも雨のなかのライブで決してポカポカではな

かったんですが、人と人が触れあうだけであたたかみが生まれるんだと感じて、心の底からポカポカしました。

小嶋 ライブをしたときに、小さな女の子から「きてくれてありがとうございました」とお手紙をいただきました。覚えてたのひらがなで書いてくれて。来てよかったな、また行きたいなと思えたし、「ありがとう」としっかり文字にして私たちに伝えてくださったのが本当にうれしくて、幸せでした。

—このプロジェクトを通して、自分たちのなかで変わったことはありますか？

高橋 考え方が根本から変わりました。震災が起きる前は、な

んでこんなに皆さんが応援してくださるのか、そして自分たちに何ができるのか、わからない部分がありました。でも、震災後に全国の握手会に行くと、特に東北から離れている地方では、現地で起きていることの大変さがわからなくて、全然空気が違っていました。それを知って、「私たちが現地に足を運んで体験していることを伝えなければ」とわかりました。

小嶋 去年、ある番組で三陸鉄道に乗ったんですが、そこで感じたのは、やっぱりその場所へ行ったら何かを感じたり、人と触れ合うことがすごく大事だということ。うれしかったのは、同



Minami Takahashi

たかはし・みなみ
1991年生まれ、東京都出身。
AKB48総監督。2005年に1期生として加入以降、
AKB48の成長を支え続けている。

東北のおいしいものもみんなに発信

—支援活動を通して、自分のなかでこれだけは絶対忘れないでおこう、守っていこうということはありませんか？

高橋 知ることを恐れないことですね。最初は、どういう現実があるのかわからなかったし、現地へ行くのが怖かった。知ってしまうということは、関わっ



Mako Kojima

こじま・まこ
1997年生まれ、東京都出身。
2012年第14期研究生オーディションに合格、
13年正規メンバーに昇格。

じどころに2回行かせていただく、前は瓦礫があった場所が、きれいになっていたりする。それを見ると自分も地元の人のようにうれしくて、皆さんが元気になっていく姿と一緒に見たいと思いました。

ていかなければいけないということですから。でも、行くからには逃げない、と覚悟を決めて行きました。この活動を通して、恐れずにちゃんと知ることが、いかに大切かがわかりました。

小嶋 私はやっぱり笑顔。私たちが現地で元気をもらっているのは、きっと皆さんが心の底から喜んで笑ってくださる笑顔があるからだと思うんです。笑顔の人がいると心があたたかくなって、一緒に笑える。これからはアイドルとしても、一人の私としても、どんなときも笑顔を絶やさないと決めています。

岩田 東北は自分が生まれ育った大切なふるさとだし、私の原点。いつも最初に頭に浮かぶの



Hair&Make Styling/osare company

復興にはまだ時間がかかる 私たちはいつまでも 東北に通い続けます

は被災地のことで、ずっと忘れてはならないと思っています。うれしいのは、以前は被災地訪問など震災に関係するお仕事が圧倒的に多かったんですけど、最近は震災とは関係なく、仙台などのイベントに呼んでいただくことが増えたこと。それと、「もう被災地と呼ばないでほしい」と言われたことがあって、風化させるのとは違う意味で、皆さんどんどん忘れようとしているのかなと感じました。東北の人はほとんど前に進もうとしているので、私もふるさとに帰るときは暗い顔をせずに、明るい気持ちで、とにかく元気を届けようと思っています。そして、これからも東北に帰って、東北のお米を食べて、東北の空気を吸いたいと思っています。—そうやって現地のおいしいものを買ったたり、食べることも大きな支援になりますね。



ライブトラックでのライブなど、AKB48の東北支援活動は定期的に継続。東北以外の人々に現地のことを知ってもらう活動も続けている。

高橋 本当においしいものがたくさんありますよね。私が好きなのはソースかつ丼(笑)！ボリュームたっぷりでおいしくて、すぐにSNSにアップしました。
小嶋 牛タン、大好き(笑)。宮

当に大丈夫だから販売しているので、ぜひたくさんの方に安心して食べていただきたいです。
みんなで手を取りあい前に進んでいきたい

—復興まではまだ時間がかかると思いますが、今後の活動は？

高橋 災害が起きた直後は、いろんな方が寄付をしたり、ボランティアに行きますが、時間が流れると、どうしても関心が薄れてしまいがちですね。東日本大震災でも、足を運ぶ方が少なくなっていくのが現状らしく、「ずっと来てくれるのはAKB48だけ。でも、まだまだ復興には時間がかかるから、みんなに来てほしい」という言葉

葉をいただき、続けていくことが大事だとあらためて思っています。

私は今年AKB48を卒業しますが、新しく入ってくる子たちにもきちんと引き継ぎ、来年か

らは高橋みなみとして震災と向き合い、ファンの方と一緒に自分のできることを探していきたいです。

岩田 私はAKB48の中で現地での揺れを体験した唯一のメンバーなので、私にしかできないこと、私にしか言えないことが少なからずあると思っています。何十年たっても私は行き続けないといけない、会い続けなければと、4年たったいま、痛いくらいに感じます。

小嶋 実際に被災地へ行って歌やダンスを届けられるのは、アイドルとしての自分にできることのひとつだと思うので、アイドルとしても、一人の人間としても、自分にできることを、これからも一生懸命やりたいです。—最後に、被災地の皆さんにメッセージをお願いします。

小嶋 復興に取り組む皆さんには、大変なことや心の傷もあると思いますが、私たちが歌って踊ってその楽しさを伝えて、笑顔になってもらうことが、少しでも癒やしになればいいなと思っています。

岩田 私が一番伝えたいのは、「被災者だから我慢したり、夢をあきらめる必要は決してない。夢をかなえてほしい」ということ。私はいま東京に住んでいますが、自分が何かすることで東北に元気が届けられたらいいなと一番に考えて活動しています。自分の夢をかなえることで、ふるさとが元気になるかもしれないと思ってみんながやっていけば、きっと目に見えない復興も進んでいくんじゃないかなと思います。

高橋 現地で復興に尽くされている皆さんは、私たちの未来、進む道を作ってください。そうしたご努力がいまにつながり、進めない道はないんだなと感じています。まだまだ気持ちが晴れない方もたくさんいらっしゃるでしょうし、失ったこともたくさんあると思います。でも、これから進む先に見られる景色や、作っていくことができるとあると思うんです。私たちは若くて微力ですが、前向きで力強い東北の方々の力をいただきながら、みんなで手を取りあって前に進んでいければと思っています。

2015年3月21日、4年ぶりにJR石巻線が全線再開、新装開業となった女川駅から地元の小学生を乗せた臨時列車が出発した。駅周辺には列車の再開を祝おうと、たくさんの方が集まった。

つながる ひろがる

復興するまちを訪ねて

特集



3月21日、22日に女川町で開催された「まちびらき」イベントと「女川町復興祭2015」。津波到達推定時刻に「逃げる〜！」の掛け声で坂道を駆け上がる「復幸男」(写真上の2点)をはじめ、出店やライブなどがあり、2日間たくさんの方にぎわった。



東日本大震災から4年。地元とUR都市機構がタッグを組み、スピードを第一に進めてきた復興事業が、小さな実を結び始めた。津波で流された線路がつながり、新しいまちとなる台地がひろがっていく。一步一步、少しずつ前へ進み始めた東北のまち。まずは3月にJR石巻線が開通し、新たな「まちびらき」を行った宮城県女川町^{おながわちょう}からご紹介しよう。

生まれただばかりの 新しい「まち」に 希望の一步がしるされた日

防災だけでなく、過疎化にも対応したコンパクトなまちづくりを進める女川町。今年3月21日には、駅を中心とした新たなまちの一部が完成して、「まちびらき」を宣言。人々は確実に歩む復興への一步をとともに祝った。



「おながわ復興まちびらき」を宣言しテープカット。女川駅の駅舎は世界的建築家・坂茂氏(写真右から2番目)の設計。

JR石巻線は小牛田(ここた)と女川を結ぶ約45キロの路線。石巻市ゆかりの石ノ森章太郎氏のマンガキャラクターをラッピングした列車が女川駅へ向かう。



線路がつながり 復興へ大きな一步

トンネルを通り抜け、造成地に建てられた真新しい女川駅へ。4年ぶりに全線開通したJR石巻線の列車が滑り込むと、ホームはたちまち人々の笑顔であふれた。多くの人が訪れ、町民とともに市街地復興の本格スタートを祝った3月21・22日の「おながわ復興まちびらき2015春」式典と「女川町復興祭2015」。この日、鉄道再開とともにオープンしたのはJR女川駅と、駅舎に併設された町営「女川温泉ゆほっぼ」プロムナード。

これに続いて、町内外の人々の交流施設や、水産業体験館も開設され、駅前テナント型商店街も着工予定。店舗の再建も動き出して、冬までには新生女川のにぎわいエリアが、何もなかった造成地に姿を現すことになる。

石巻市の東12キロ、牡鹿半島の付け根にある水産業のまち・女川は、あの日14・8メートルもの津波に襲われ、まちのほとんどを失った。その復興を、町とパートナーシップ協定を結んだUR都市機構

構が支えている。

離半島部の14地区も含め、まち全体の復興を包括的にサポートするパートナーシップ協定は、UR都市機構が復興支援に取り組む22の公共団体で唯一のものだ。締結にはUR都市機構の強い思いがあったと、UR女川復興支援事務所長、後藤浩は語る。「まちの規模に対して被害が大き、全面的な支援をするべきだ」という判断と、包括的に支援することで、他の市町村の復興事業を先導できればという思いもありました」

単なる復興ではない 新たなまちをつくる

女川町は須田善明町長のリーダーシップのもと、高台移転を前提とした復興計画を策定している。核となるのは、千年先まで通用する津波防災と、人口減少を視野に入れ、公的機関などを1カ所に集めたコンパクトシティーの構想だ。ただ単に復旧・復興するだけではなく、過疎化といった震災前からあった課題にも挑み、まったく新しいまちづくりを目指すのだ。計画では、山を切り開き、ある

みなさんの期待と要望にこたえて きたい」と後藤所長は熱く語る。

新しい住宅は コミュニティに配慮

離半島部も災害公営住宅の建設が進んでいる。離島である出島では高台の造成後、平成26年8月に24戸の戸建災害公営住宅が完成して、いち早く住民の新しい暮らしがスタートした。

町の中心部の高台にも、平成26年3月に災害公営住宅「女川町営運動公園住宅」が完成した。陸上競技場を解体し、その跡地を利用して建てられた8棟の建物からなる計200戸の集合住宅だ。敷地内にはかつての競技場のトラックの形に道路を巡らせるなど、随所に住民に親しまれてきた記憶を残す工夫を凝らしている。

「女川の人たちは戸建て住宅に住んでいた方が多く、集合住宅での暮らしに慣れていません。ですから4階建てまたは3階建てと、ゆとりをもった高さに抑え、明るく開放的な空間となるように配慮しました」

と話すのは、UR女川復興支援事務所の副所長、太田謙。平行に



「女川町復興祭」にはUR都市機構もブースを出展、女川での取り組みを紹介した。



離半島14地区も津波で大きな被害をこうむり、安全な高台に居住地を整備する計画が進む。写真の出島では昨年夏に災害公営住宅「出島住宅」24戸が完成、住民に引き渡された。漁業関係者にも使いやすいよう、軒下に作業場を設けてある。



いは盛土でかさ上げして、今回と同等の津波が来ても安全な高台を作って住宅地とし、それより低い土地は商業や業務施設、海ぎわは水産施設や公園の用地にあてる。また、離半島部も住宅を高台に移し、被災した海ぎわの集落跡地は漁業や産業再建に活用する。

UR都市機構はこれらの事業計画や基本設計、換地計画など事業

全体をトータルに調整して進めている。復興事業では、工事の質はもちろんだが、スピードが最優先。効率を上げ、時間をロスしないためにいかに事業全体をコントロールし、町はもろろん国や県、JRなど多岐にわたる関係各所と調整するか、手腕が問われる。しかも、普段UR都市機構が手がける同規模の開発事業では10〜20年かかるところを、半分の時間で成し遂げる計画だ。

「1日も早い生活再建を望む住民の方々が待っています。難しい局面もありますが、頑張っ



©富田真一(フィールドリッチ)



©富田真一(フィールドリッチ)



昨年完成した女川町営運動公園住宅と、太田副所長(写真上)。「町内のあちこちで被災された方々が入居されるので、新たな住民同士の繋がりが生まれ、コミュニティが形成されやすいように様々な工夫を盛り込んであります」。



©沖 裕之 (Blue Hours)



宮城県東松島市野蒜地区

Miyagi-Higashimatsushima

5月30日に仙石線が開通 1日も早く、 高台にまちをつくる

津波で大きな被害を受けて、不通になっていた鉄路が、またひとつ結ばれる。
JR仙石線の新たな線路は、造成された丘陵地を走る。



丘陵地を造成してまちを再生する野蒜北部丘陵地区。震災前(上)と現在(下)で、生まれ変わったまちがわかる。

仙石線は仙台と石巻を結ぶ重要路線。鉄道の造成高は当初海拔20mだったが、JRと協議して22mに変更。仙石線野蒜駅が姿を現わした。



駅周辺の造成を急ピッチで進める野蒜北部丘陵地区。次は住宅整備を進める。



「自分の部屋ができて、中3になる息子が勉強に集中できる環境が整ったのはうれしい」と横井一彦さん。

「日当たりがいいので冬暖かく、夏は風が通るのでクーラーもいらぬ」と住まいに満足の内村泰子さん(写真右)。仲良しのお友達・佐藤あや子さんと。

並ぶ南向き4階建ての住棟の1階には大きなビロテイを設け、敷地の反対側まで見通せる開けた空間とし、通路には人が溜まれるスペースを設けたり、ベンチもあちこちに配置するなど、新しいコミュニティづくりへの配慮もきめ細かい。入居から1年が過ぎ、屋外で住民同士が集まっておしゃべりをするなど、すっかり新しい生活になじんでいる様子が見て取れる。「プライバシーが守られて、落ち着いて生活できる安心感はないものにも代えがたい」と話す横井一彦さん。「今年の正月は4年ぶりに子どもや孫たち全員がこの家に集まって、襖を外してみんなで寝たのよ」と笑う内村泰子さん。どちらの住戸も南向きの4階で、見

復興を前向きにとらえたい

女川町長 須田善明さん



須田町長(右)と握手を交わすUR女川復興支援事務所長の後藤浩(左)。

復興は、新しい価値を創り出していくものだと思います。まちのコアに都会的な機能を集積した、利便性の高いコンパクトシティ。誰もが自由に楽しみを見つけられる、魅力的な空間を持つまち。過疎化という現実を前に、震災前から必要性を感じていたそんなまちづくりを高台移転と同時に推進して、「住みたい、訪れたい」まちの魅力創出を目指してきました。

第一弾のまちびらきを開催して第一歩を踏み出したのも、多くの方々の理解と頑張りのたまものです。今後は少しずつまちが形になっていきますが、地域の声を大切に、町民の参加も得ながらまちづくりができればと思います。将来の地方社会の可能性を示せる、価値あるまちを実現していきたいですね。

晴らしや日当たり、風通しのよさに「最高です」と顔をほころばせる。集合住宅の生活を満喫しているようだ。

一步一步 確実に前へ

市街地地区での自立再建用の土地の引き渡しや災害公営住宅の供給は、これからも順次行われる予定。確実に刻んできた復興への歩みは希望の礎だ。
3月21日のまちびらきの式典に参列した出島区長、酒井實さんは「出島はひと足先に復興したけど、まちのほうも前へ前へ、これからどんどん進んでいくと思う」と期待を寄せる。式典を見に来ていた女性は、まだ仮設住宅暮らしだが、



災害公営住宅の前で、出島の区長を務める酒井實さん夫妻。

「うれしいですね。こうやって一步一步進んでいくんですね」と笑顔がこぼれる。
ようやく見えてきた明日への期待。今回のまちびらきは、まだ第一弾。今後も第二弾、第三弾……と続いて、新しいまちと暮らしへ、夢をつないでいくことだろう。

緑

に囲まれた丘陵の上部に広がる台地。津波で甚大な被害を受けた東松島市野蒜地区は、丘陵地を造成して高台にまちをつくっている。この高台に500メートル内陸ヘルトを変えたJR仙石線の線路が走り、駅舎も完成した。高台移転用地は総面積約92ヘクタール、平成28年度末までに448戸の宅地が完成、引き渡しが行われる。

東松島市とUR都市機構が復興まちづくりの協力協定を結んだのは平成24年3月。
「復興で最も求められるのはスピード。1日も早くこの地元の要望にいかに応えるかが一番の課題でした」
UR都市機構の東松島復興支援事務所の市街地整備課長、吉原康史は語る。

迅速に工事が進められるよう、市は用地を全面買収、UR都市機構は事業全体のマネジメントに専念するCM方式という手法をとった。基盤工事課長、芳賀直によれば、「詳細設計をしながら同時並行的に工事を進め、関係者との調整を重ねて、設計変更にも素早くかつ柔軟に対応できる体制をとり



「待っている方が1日も早く住めるようにすることが使命」と話すUR東松島復興支援事務所の吉原課長(左)と芳賀課長(右)。

ました」
何よりの推進力になったのは、巨大なベルトコンベヤーの採用だ。これなら1日に1万6500トン、10トントラック1650台分の土砂を搬出できる。また、削る土の量が少なければ工期も短縮できるので、JR東日本とも協議して造成地の海拔を当初の予定より上げて22mに変更。鉄道用地を優先して造成し、済んだ端からJRに引き渡して、線路工事に着手してもらえるようにした。
成果が実り、土砂の搬出は予定より5カ月も早く10カ月で終了。27年度の10月が目標だった仙石線の開業も、5月30日に早められた。復興の加速につながってほしいとの思いを担ってJRも力を尽くし、誰もが待ち望んだ仙石線が全線開業。もちろん野蒜の人々にとって、新たなまちづくりに向けての力強い一歩が刻まれる。



大船渡市 大船渡駅前周辺地区

左手に見えるのが、現在の大船渡プラザホテル。移転先にはすでに盛り土がされている。駅前周辺地区の区画整理等を担当するUR都市機構は早い段階からホテル側と調整を進め、車の出入口や駐車場の利便性にも配慮した。

宿泊はもとより、会合や冠婚葬祭など人々の交流の場として、長年愛されてきた大船渡プラザホテル。「移転先で大船渡の新たな迎賓館になりたいですね」と今野支配人。背後には移転先が広がる。



大槌町 大ケロ二丁目地区

三世代4名で暮らす三枚堂さん夫妻。県外の親戚宅でお世話になった時期もあるが、「慣れ親しんだ土地で暮らしたい」と大槌町に戻り、戸建住宅への入居を希望していた。

大ケロ二丁目の住宅は3DKと4DKタイプがあり、全23戸。玄関まわりには地元産の木材を使用している。



岩手県

それぞれの思いを胸に 踏み出す新たな一歩

UR都市機構は岩手県の7市町村で復興まちづくりを支援している。今も多くの人が仮設住宅で暮らし、復興支援事業は道半ばだが、各地で着実に次のステージへ向けた動きが始まっている。それぞれが夢や希望、使命感を抱いて……。

落ち着いて暮らしたい！ まちを活気づけたい！

大 槌町でUR都市機構が建設を手がけた大ケロ二丁目地区災害公営住宅は、地域景観に配慮した木造和風の一戸建て。玄関に車椅子や手押し車を置けるスペースを確保するなど高齢者にも配慮した造りが特徴だ。昨秋、その一軒に入居した三枚堂一男さん、純子さん夫妻は、「父や息子の部屋もありますし、お隣の音を気にせず、落ち着いて暮らせる一軒家は本当にありがたいです」と口を揃える。リフォームしたばかりの自宅を東日本大震災で失

い、避難所や仮設住宅での生活を続けてきた三枚堂さん一家。念願の一軒家では、仮設住宅では別々に暮らしていた親御さんともひとつ屋根の下で暮らせるとあって喜びもひとしおだ。

顔見知りのほとんどいない新たな地でのスタートだが、三枚堂さんは自治会の班長を引き受け、コミュニティづくりを始めている。**新** 居を待ちわびている人もいる。山田町織笠の仮設住宅に暮らす菊地サカエさんもそのひとり。UR都市機構が整備を進めている織笠地区の高台造成地の一角に新居を建設予定だ。災害公営住宅ではなく、菊地さんが土地の購入と新居建築の自力再建にこだ



UR大船渡復興支援事務所市街地整備課の三戸勇二課長は、住民の思いを計画に反映しながら、スピーディーな対応を心がけている。

「自分たちがいなくなった後も、子どもや孫が帰って来られる場所ふるさとを残したいと思って」造成工事の音をうるさく感じたことはないと言語る菊地さん。「機械の音が聞こえると、工事が進んでいるわとワクワクするのは菊地さんをはじめ多くの人たちの夢を一日でも早く叶えるべく、懸命な造成工事が続けられている。ふるさとを活性化させたい」との思いで立ち上がったのは、陸前高田市の下和野団地内で「理容美容 髪遊」を営む佐々木佳子さんだ。以前は大船渡で働いていたが、「いつかは地元、陸前高田に戻って独立したい」という夢が東日本大震災を機に急展開。「若い人が減っていくなか、育ててもらったこのまちを活性化させたいと強く思い、決意しました」折しもUR都市機構が手がけた下和野団地で入居店舗を募集中。

厳しい状況にあつて大船渡プラザホテルが駅前用地を確保でき、先陣を切って着工したことについて、今野廣己支配人は「このまちを復興させたいという市民の思いや、復興には宿泊施設が必要とい

応募して、昨年12月に開店した。「身だしなみがきれいになると気分もすっきりするので、明日への活力につながってもらいたい」と佐々木さん。ふるさとの将来を見据えながら、地域住民に寄り添った店づくりに励む毎日だ。**大** 船渡プラザホテルもまちの活性化のために英断した。津波に耐え、その後早々にリニューアルして営業を続けてきたが、大船渡市が発表した復興まちづくり計画は、大船渡駅周辺を津波復興拠点として整備し、行政施設や商業施設などを集約するもの。そして大船渡プラザホテルの敷地には幹線道路が造られるという計画だった。

「社長の早い決断により進みました」と語る。新たな場所でのオープンは来年3月予定。ランドマークとなる新生大船渡プラザホテルの完成を、多くの人たちが今から待ちわびている。



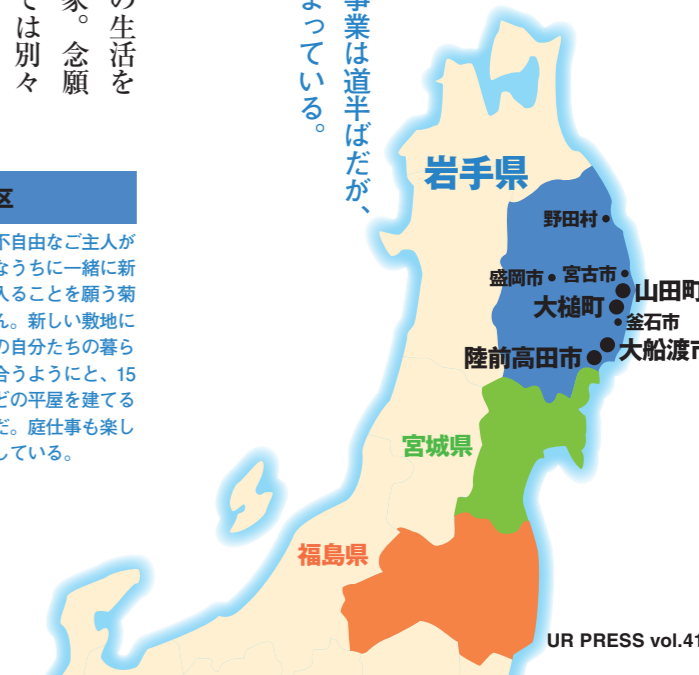
陸前高田市 下和野地区

1階部分に店舗・福祉施設を設けた下和野団地災害公営住宅。佐々木さんがこだわった店内は、高齢者や車椅子の人も利用しやすい造り。地域の人の交流の場になることを願っている。●理容美容 髪遊 ☎0192・47・5251



山田町 織笠地区

体が不自由なご主人が元気なうちに一緒に新居に入居することを願う菊地さん。新しい敷地には今の自分たちの暮らしたいに合うようにと、15坪ほどの平屋を建てる予定だ。庭仕事も楽しみにしている。



待望の仮設商店街 「とよマルシェ」が誕生。 地域住民の希望の光に！

美空ひばりの「みだれ髪」にも歌われた、いわき市の塩屋埼灯台。この風光明媚な灯台周辺の地域が津波で甚大な被害を受けてから4年、ついに住民待望の仮設商店街が開店した。



豊間と薄磯地区では高台移転のための宅地造成工事が進められている。

地域住民でにぎわう 交流・憩いの場に

太 平洋に面した塩屋埼灯台の北側に広がる「薄磯」と、南側に広がる「豊間」。観光と水産加工業が主産業の両地域は、あの日、8メートルを超える津波に襲われ、9割近い家屋が全半壊した。いわき市と協力協定を結んでいるUR都市機構は、大きな被害を受けたこの地域の復興まちづくりを支援。高台移転のための市街地整備や海側の防災緑地の整備を進めている。

まりを受けて、UR都市機構いわき復興支援事務所の佐藤秀城は、なるべく少ない負担で再建できる方法の調査に尽力。そして提案した中小企業基盤整備機構の助成制度が、開店への第一歩になった。「我々の仕事は宅地を整備したら終わりではありません。まちに人々が戻って来るためには何をすべきかを考え、並行して進めていく必要があるのです」

その豊間で話題となっているのが、1月に県道沿いにオープンした「とよマルシェ」だ。ミニスーパーに鮮魚店、宿泊&食事処、ラーメン店の4店舗が入居した復興仮設商店街で、地域住民の買い物、交流の場としてにぎわっている。「とよマルシェ」の開店にあたっては、UR都市機構も協力。もともと事業者が少ない地域にあって、「商店を再建したい」という声、また住民の生活利便施設を求める声の高

ては、UR都市機構も協力。もともと事業者が少ない地域にあって、「商店を再建したい」という声、また住民の生活利便施設を求める声の高

最 初に再開希望の手を挙げたのは、志賀文彦さん。「生活に必要なものが揃う場を造りたいと思って、ようやくオープンにこぎつけました」と振り返る。家は代々続く牛乳製造・販売業だが、今は「とよマルシェ」内で、日用品や野菜を扱うミニスーパー「ベジタブルShiGa」を営み、地域住民の暮らしを支えている。「店を再開してよかったのは、お客さんを通して、豊間の人たちの消息がわかること」と言うのは、昔ながらのラーメンが人気の「中華はまや」店主・馬目正幸さん。この辺りの人は集合住宅に慣れていないこともあり、

佐藤所長(右)をはじめUR都市機構いわき復興支援事務所のメンバーも頻りに「とよマルシェ」を訪れ、応援している。



とよマルシェ

福島県いわき市
平豊間榎町73-1



ウロコジユウ
☎0246・38・5595

いわきの人は魚を見る目が厳しいし、食べ方を知っているから、やりがいがあります！(金成さん)



中華はまや
☎0246・38・2432

4年経っても、地域の人はモヤモヤした気持ちをもっていると思うので、店に来て気を紛らわせてほしい。(馬目さん)



ここはあくまで仮設。本業の再開を目指して頑張ります！(志賀さん)

ベジタブルShiGa
☎0246・38・2003

魚定食やカレーが人気です。ぜひ食べに来てください。(遠藤さん)

宿泊と食事のB&B
きゅういち
☎0246・38・2191



花や緑を増やす活動推進中！

桜の植樹

豊間、薄磯、沼ノ内の3地区では、復興の足跡を永く後生に残していくことを目的に、シンボルとなる桜の植樹に取り組み始めた。「復興さくらの会」が中心となり、災害公営住宅敷地や防災緑地、区画整理地区内に3,000本の桜の木を植える予定。3月7日には豊間災害公営住宅集会所で記念すべき第1回の植樹祭が行われた。

第1回の植樹祭にはいわき市の清水敏男市長(右)も参加。遠藤守俊豊間区長(左)とともに「大漁桜」を植樹。



どんぐりプロジェクト

豊間・薄磯地区の海側で整備が進められている防災緑地。そこに、どんぐりの苗木を育てて植える「どんぐりプロジェクト」も進行中。これはUR都市機構いわき復興支援事務所の栗城英雄の「将来、自分たちを守る緑地の木を住民で植えられないか」との提案で始まった活動。宅地造成のために伐採される里山のどんぐりを拾って、子どもたちも参加して苗木に育て、植える取り組みを行っている。



提案で始まった活動。宅地造成のために伐採される里山のどんぐりを拾って、子どもたちも参加して苗木に育て、植える取り組みを行っている。

以前は地域活動に積極的だったにもかかわらず、災害公営住宅に入居してから引きこもりがちの人が少なくないそう。馬目さんは気にかけている。そんな人々にとっても、中華はまやの懐かしいラーメンの味は外出を誘うきっかけになっている。娘の玲子さんと共に「宿泊と食事のB&B きゅういち」を営む遠藤重政さんも、かつての民宿のお客さんが訪ねて来てくれるのがうれしいと語る。「日常生活を取り戻すという当初の目的だけでなく、人々の憩い、癒しの場として広く利用されていることに驚いていますね」と遠藤さんは微笑む。一方、日増しに品揃えが充実し

ていると評判なのは、鮮魚店「ウロコジユウ」。鮮魚はもとより惣菜も豊富で、カツオの南蛮漬けからウニの貝焼きまで、店内にはさまざまな郷土の味が並ぶ。「地元のお客さんの要望に添えているうちに増えてしまっ」と話すのはウロコジユウを営営する金成勝弘さん。来店が難しい高齢者のために、災害公営住宅の集会所への商品の配達も始めた。公共交通機関や商店が近隣にない地域にあって、「とよマルシェ」は特別な存在だ。住民の生活支援の場であるだけでなく、コミュニティ再生の重要な場でもあることは、訪れている人々の表情や会話の様子を見れば一目瞭然。人々の心に灯る希望の光になっている。

UR都市機構が取り組む復興支援MAP2015

※データは平成27年4月10日時点
 ※災害公営住宅整備事業の表記戸数は建設計画戸数
 ※「建設中」とは、建築施工業者特定済のこと（設計段階のものも含む）

気仙沼市

75ha 南郷地区

- 鹿折 42ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始
- 南気仙沼 33ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始

1033戸

- 南郷（南気仙沼小学校跡地）165戸 / H27年3月完成・引渡済み
- 四反田 70戸 / 建設中 / H27年9月完成予定
- 鹿折 284戸 / 建設中 / H28年8月一部完成予定
- 南気仙沼 320戸 / 建設中 / H28年3月一部完成予定
- 気仙沼駅前 194戸 / 一部建設中 / H28年10月一部完成予定

石巻市

24ha 新門脇地区

- 新門脇 24ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始
- 中央二丁目11番 2ha / 市街地再開発事業コーディネート中

435戸

- 大街道西二丁目 15戸 / H27年3月完成・引渡済み
- 大街道北二丁目 39戸 / 建設中 / H27年6月完成予定
- 中央一丁目 51戸 / 建設中 / H27年9月完成予定
- 駅前北通り一丁目 65戸 / 建設中 / H27年10月完成予定
- 泉町四丁目 28戸 / 建設中 / H27年6月完成予定
- 中里一丁目 28戸 / 建設中 / H27年8月完成予定
- 不動二丁目 24戸 / 建設中 / H27年12月完成予定
- 中央一丁目南 35戸 / 建設中 / H28年度完成予定
- 門脇 150戸 / 建設中 / H28年度完成予定

東松島市

114ha 野蒜北部丘陵地区

- 野蒜北部丘陵 92ha / 工事中 / H25年度一部引渡開始
- 東矢本駅北 22ha / 工事中 / H25年度一部引渡開始

307戸

- 東矢本駅北 307戸 / H26年11月一部完成・引渡し済み

塩竈市

355戸 浦戸桂島地区

- 伊保石 31戸 / H26年1月完成・引渡済み
- 錦町 40戸 / H27年3月完成・引渡済み
- 浦戸桂島 13戸 / H27年2月一部完成・引渡済み
- 浦戸野々島 15戸 / H27年3月完成・引渡済み
- 浦戸寒風沢 11戸 / 建設中 / H27年11月完成予定
- 浦戸朴島 5戸 / 建設中 / H27年11月完成予定
- 清水沢 170戸 / 建設中 / H28年6月完成予定
- 錦町東 70戸 / 建設中 / H28年12月完成予定

多賀城市

532戸 桜木地区

- 桜木 160戸 / H26年10月完成・引渡し済み
- 鶴ヶ谷 274戸 / 建設中 / H28年2月完成予定
- 新田 48戸 / 建設中 / H27年9月完成予定
- 宮内 50戸 / 建設中 / H28年度完成予定

須賀川市

3ha 須賀川市八幡町地区

- 須賀川市八幡町 3ha / 市街地再開発事業コーディネート中

南三陸町

111ha 歌津名足地区

432戸

- 志津川 111ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始
- 入谷桜沢 42戸 / H26年7月完成・引渡済み
- 歌津名足 28戸 / H26年7月完成・引渡済み
- 志津川東（第1） 82戸 / 建設中 / H28年6月完成予定
- 志津川東（第2） 165戸 / 建設中 / H28年度完成予定
- 志津川中央 115戸 / 建設中 / H28年度完成予定

女川町

272ha 女川駅周辺

- 中心部 218ha / 工事中 / H24年度一部引渡開始
- 離半島部 54ha / 工事中 / H25年度一部引渡開始

478戸

- 女川町民陸上競技場跡地 200戸 / 平成26年3月完成・引渡済み
- 女川駅北 145戸 / 調査・設計中 / H29年2月完成予定
- ずい道 115戸 / 調査・設計中 / H29年6月完成予定
- 荒立・大道① 18戸 / 調査・設計中 / H28年10月完成予定

名取市

100戸 下増田地区

- 下増田 50戸 / 建設中 / H27年7月完成予定
- 高柳辻 50戸 / 調査・設計中 / H29年度完成予定

新地町

30戸 愛宕東地区

- 愛宕東 30戸 / H25年12月完成・引渡済み

桑折町

47戸 桑折駅前地区

- 桑折駅前 47戸 / 建設中 / H27年5月完成予定

大熊町

大川原復興拠点の基本計画検討業務実施中

いわき市

93ha

- 豊間 56ha / 工事中 / H27年度一部引渡開始予定
- 薄磯 37ha / 工事中 / H27年度一部引渡開始予定

野田村

13ha 城内

13ha / 土地区画整理事業コーディネート業務完了

宮古市

69ha 田老地区

- 田老 45ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始
- 鍛ヶ崎・光岸地 24ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始

大槌町

40ha 大ケロ二丁目地区

229戸

- 町方 40ha / 工事中 / H25年度一部引渡開始
- 大ケロ 70戸 / H25年8月完成・引渡済み
- 屋敷前 21戸 / H25年11月完成・引渡済み
- 大ケロ二丁目 23戸 / H26年9月完成・引渡済み
- 榎内 13戸 / H26年12月完成・引渡済み
- 町方（末広町） 52戸 / 建設中 / H27年度第4四半期完成予定
- 寺野 27戸 / 一部建設中 / H27年度第4四半期完成予定
- 町方（御社地） 約23戸 / 調査・設計中 / H28年度完成予定

陸前高田市

303ha 今泉・高田地区

- 今泉 113ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始
- 高田 190ha / 工事中 / H25年度一部引渡開始

359戸

- 下和野 120戸 / H26年9月完成・引渡済み
- 水上 30戸 / H26年12月完成・引渡済み
- 大野 31戸 / 建設中 / H27年度第4四半期完成予定
- 田端 14戸 / 建設中 / H27年度第4四半期完成予定
- 長部 60戸 / 調査・設計中 / H28年度完成予定
- 今泉 104戸 / 調査・設計中 / H28年度完成予定

山田町

91ha 織笠地区

- 大沢 19ha / 工事中 / H27年度一部引渡開始予定
- 織笠 13ha / 工事中 / H27年度一部引渡開始予定
- 山田 59ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始

233戸

- 大浦（大浦第1） 9戸 / 建設中 / H27年度第3四半期完成予定
- 大浦（大浦第2） 16戸 / 調査・設計中 / H28年度第2四半期完成予定
- 山田（山田中央） 146戸 / 調査・設計中 / H28年度第3四半期完成予定
- 織笠（織笠跡浜） 22戸 / 建設中 / H27年度第4四半期完成予定
- 大沢小学校脇 20戸 / 調査・設計中 / H28年度完成予定
- 下条 20戸 / 調査・設計中 / H28年度完成予定

釜石市

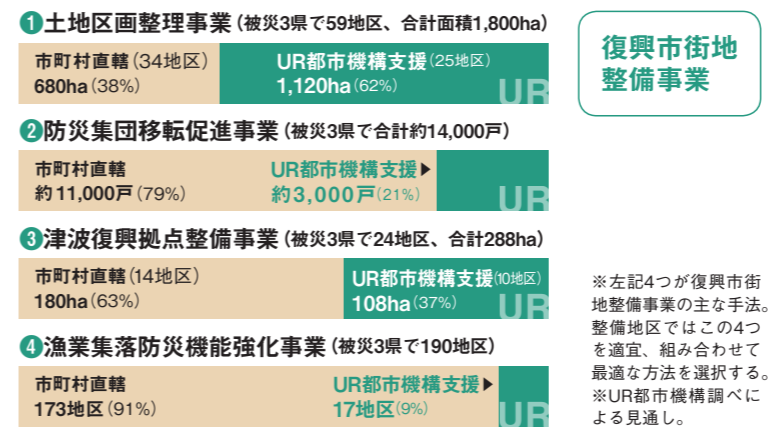
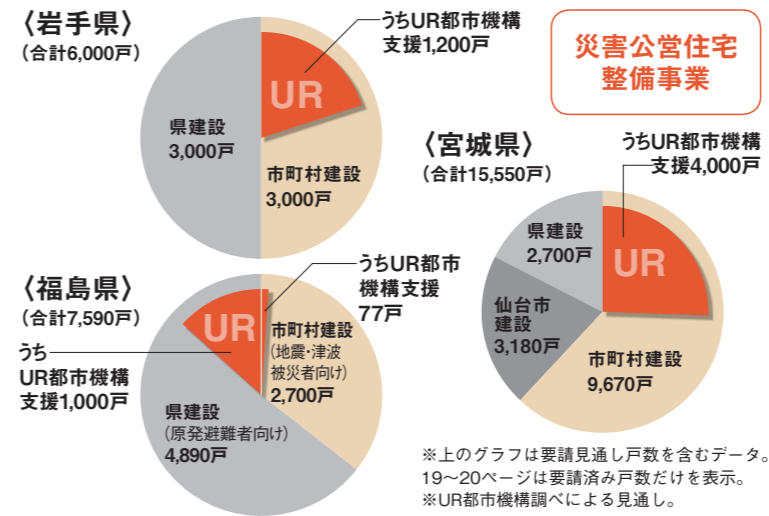
85ha 花露辺地区

- 片岸 23ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始
- 鶴住居 60ha / 工事中 / H26年度一部引渡開始
- 花露辺 2ha / 工事中 / H25年度一部引渡開始

152戸

- 花露辺 13戸 / H25年12月完成・引渡済み
- 鶴住居 120戸 / 一部建設中 / H28年度完成予定
- 片岸 19戸 / 調査・設計中 / H29年度完成予定

UR都市機構の支援比率



災害公営住宅整備事業

被災3県の計画戸数の2割強にあたる合計6,200戸を整備予定。23地区1,136戸が完成済み

被災した方々向けに低廉な家賃で安心して入居できる公営住宅を整備する事業。平成27年3月時点でUR都市機構が地方公共団体から建設要請を受けたのは78地区で約5,100戸。さらに今後約1,100戸の要請がある見直しになっている。

復興市街地整備事業

土地区画整理事業は総面積の6割強を受託。18地区約60haが完成済み

高台などに移転して住宅を建設される被災した方々のために、土地のかさ上げや整地、道路などを整備する事業。全体約1,300haのうち、平成27年度末までに支援全22地区で引き渡し開始予定。

持続可能で魅力あるまちづくりへの取り組み

宅地造成・建物建設にとどまらず、まちづくりの課題に対応した取り組みも積極的に実施

地元建設会社の参画や、地元産材の活用などによって、地域産業の振興に配慮。

その他、整備した土地について、活用を希望する地権者と立地を希望する事業者とのマッチングの機会を創出することにより、中心市街地の再生を支援する取り組みや、災害公営住宅の集会所の利用促進を通じて入居者間や地域住民とのコミュニティ形成を支援する取り組みなども実施している。



兵庫県芦屋市

その未来は東北にも いずれやってくる

阪神・淡路大震災から20年たったいま、
壊滅状態だった兵庫県芦屋市茶屋之町も見事に再生した。
被災・復旧・復興・再建に携わった人だからこそ、
「再生したまちを見に来て」と、東北の人々に熱きエールを送る。



阪神・淡路大震災の悲劇を忘れないよう、炊き出しなどで使用したドラム缶をモチーフに鐘を屋上に制作した、西法寺の上原照子さん。

まらない意見を、うまく理解しながら、設計図に描いてくれました。ここは公園にするといい、ここはこうしたらいいんじゃないかと、いろんなアドバイスもしてくれ、もしかしたら新しいまちをつくれるかもしれない、そう思えるようになってきました」

上原さんが住む地域は区画整理され、住民たちは住宅を建設し始めた。目に見える形で一歩一歩進む様子を見て、

「確信しました。多くの助けを得ましたが、わたしら住民が一生懸命に取り組むことで、まちは再生できるんですよ」

どん底からの まちづくり

大震災から21年目を迎えるいま、上原さんは東日本大震災で被災した地域の人たちに、自信に満ち溢れた様子でエールを送る。

「わたしら住民が話し合ったんは、いつも未来への夢でした。震災直後は気付かなかったけれど、20年



上/震災直後の茶屋之町・大榎町一帯。左/公園を配ってお洒落になったいまのまちなみ。

絶望のどん底。何をしたいのか、何をすべきなのか、

まったく考えられない状態でした」
そう話すのは、芦屋市茶屋之町にある西法寺の上原照子さん。

20年前の1995年1月17日、阪神・淡路大震災が起きた。

この大震災により芦屋市も大きな被害を受けた。特に店舗と住宅が立ち並ぶ前田町や清水町、そして市場と住宅が密集した茶屋之町と大榎町の一帯がひどかった。

「このあたりは、昔からの知り合い同士が住むこぢんまりとしたまちです。一度転勤で昔屋を離れても、皆いずれ帰ってくる、それほど住民が愛着を持っている土地なんです。それが震災で、見てきた光景が瞬時になくなってしまうんです。わたしら、もうこのまちは再建できないと思ってました」

上原さんは震災後、昔屋の復興計画を住民同士で話し合う「街づくり協議会」の副会長を務めた。住民たちは、幾度となく集い語り合った。ところが、再建への組み立ては進まなかったという。

「UR都市機構さんが手助けをしてくれたんです。わたしらのま

おいしいものがいっぱいの 東北へ行こう!

UR職員からとおき情報が届きました。
ここでしか食べられない美味や、
心癒やす温泉など、地元ならではのチョイスの数々。
さあ、次のお休みにはぜひ東北へ!

僕も待ってる
トン!

宮城県

宮城・福島震災復興支援本部
嶋英二がおすすめ!

チーズ好きにおすすめ 「蔵王クリームチーズ」

新鮮な生乳とクリームから作るフレッシュタイプのナチュラルチーズ。東京へのお土産によく買います。バニラ味はチーズケーキやティラミスに。ストロベリーやラ・フランス味もおいしいですよ。

●蔵王チーズ
宮城県刈田郡蔵王町
遠刈田温泉字七日原251-4
☎0224・34・3311

宮城・福島震災復興支援本部
小上勇輔がおすすめ!

「金華楼」の 「春の欲ばり海藻ラーメン」

女川町の老舗中華食堂「金華楼」は津波の被害に遭い、現在は高台に店を再建して元気に営業中。女川カレーラーメンなど名物はいろいろありますが、おススメはワカメ、メカブ、フノリ、それに珍しいマツモの4種類の海藻がのったラーメンです。海の香りたっぷりでヘルシー。

●金華楼
宮城県牡鹿郡
女川町旭が丘1-6-1
☎0225・53・3366

石巻のいしびよんず
◎石巻市



「ふるさと納税」で東北を応援!

自分の故郷だけでなく、好きなまち、応援したいまちに寄附をする「ふるさと納税」。税金の使い道が選べるようになっていて、東北には「震災復興」を指定できる自治体も多くあります。今年4月1日から控除額が2倍になり、しかも確定申告が不要になって利用しやすくなった「ふるさと納税」。その土地の特産品などがもらえるのもうれしいところです。

福島県

いわきのフラおじさん
◎いわき市



宮城・福島震災復興支援本部
栗城英雄がおすすめ!

映画「フラガール」を見て、いわきに来て!

数々の映画賞を受賞した「フラガール」。炭鉱産業が衰退するなか、何とかしていわきに一大観光地をつくらうと奮戦する人々の姿に、心動かされること間違いなし。この映画を見れば、きっと「いわきに行きたい」「ハワイアンズに行きたい」と思うはず。

●いわき市HP「ただいま!いわき」 <http://tadaimaiwaki.jp/>

岩手県

岩手震災復興支援本部
菅沼結城子がおすすめ!

花巻温泉郷で、 心も体もポッカポカ

奥羽山脈の渓谷沿いに湧き出る花巻温泉郷には12の温泉があり、東北有数のお湯どころです。おすすめは、立って入る浴槽のある鉛温泉。泉質もさることながら、浴場の空間構成が魅力。

●藤三旅館
岩手県花巻市鉛中平75-1 ☎0198・25・2311

広報室

宮坂和江がおすすめ!

妙なる美味! 「あんかけかつ丼」

ごはんの上に千切りキャベツと揚げたての豚カツ、そこに甘酸っぱいあんかけがとろり。大正14年創業の「小角食堂」の店主・門間和雄さんの母・濱子さんが、「つゆがごはんにしみるのがイヤ」と60年前に生み出した「あんかけかつ丼」。見た目は濃厚だけど、さっぱり味でおいしい!

●小角食堂
岩手県一関市千厩町千厩字町130
☎0191・52・2319



あんかけかつ丼850円、そばセット1,050円。



大船渡のおおふなトン
◎大船渡市



岩手震災復興支援本部
木下彰子がおすすめ!

盛岡で飲みたい 「ペアレンビール」

ドイツから移設した100年前の醸造設備を使い、ヨーロッパの伝統的なビールスタイルを守ってつくられるのが、盛岡の地ビール「ペアレンビール」。お土産にはもちろん、盛岡市内に2カ所ある直営店で飲むのもおすすめ。季節限定ビールもあり、1年中楽しめます。

●ピアバブ ペアレン材木町店
岩手県盛岡市材木町7-31 ☎019・626・2771
●ピアバー ペアレン中ノ橋店
岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-21 ☎019・651・6555

岩手震災復興支援本部
今井菜乃がおすすめ!

遠野といえば ジンギスカンなんです!

遠野の人は自宅にジンギスカン鍋を持っている!というほどポピュラーです。昔から羊を飼育し食用にする歴史があったので、ジンギスカンが広まりました。遠野は生肉を焼いて、タレに漬けて食べるスタイルです。

●じんぎすかんハウス遠野肉センター
岩手県遠野市松崎町白岩20-13-1 ☎0198・62・2242



URのまち あのみち。このまち。 歩いてみよう! その2

宮城県 仙台市 あすと長町

URが手がけた土地が、時を経て、素敵なまちに育ちました。地図を手に歩いてみませんか?

開発前...長町貨物ヤドなど 開発期間...1997年~2013年
※仙台南部の新たな中心地として2007年5月に「まちびらき」が行われた。

長町 伝統と未来が調和するまち
東 未来! あすと長町
「あすと」は「明日」と「US(英語で「私たち」)をかけて、それに「(都)街」をつけたもの

開発が進み、利便性が高まる駅東側。スポーツ施設・病院・薬局・大型商業施設・公園などがそろっています。

スポーツタウンエリア
アマチュアからプロまで老若男女が楽しめる全国最大級のスポーツタウン! 仙台市と防災協定を締結。

スポーツゼビオ あすと長町店
スポーツ用品ならなんでもそろえる大型店。体験コナも豊富。



地域密着!
★エフエムたいはくのサテライト エントランスでは月~金の12時~14時、生放送をオンエア!
78.9 MHz
でっかいヘラジカのほくせい!



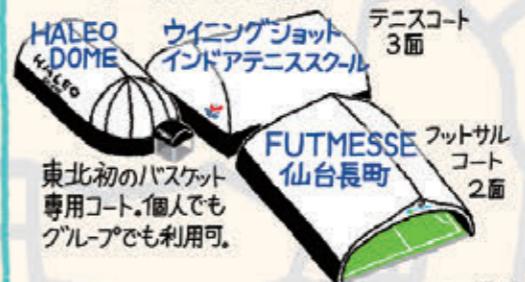
セビオアリーナ仙台

プロスポーツ競技はもちろん、大型コンサートやアイススケートにも対応。スピーカはBOSE、壁に窓がないので、こだわりの演出もバッチリ!



SRGタカミヤスポーツパーク

屋根があるから、雨でも雪でも大丈夫! それぞれスクールも充実。



東北初のバスケット専用コート。1人でもグループでも利用可。
自慢のテナント群!
飲食店はチェーン店なし。9店はすべて異なるタイプで選ぶ楽しさにワクワク!

あすと長町 & 長町商店街で まちの声 聞いてみました!

VOICE 1
佐藤工業の山梨 弘幸さん
スポーツタウンエリアの開発・運営をしています。セビオアリーナ仙台をはじめ、フットサルコート、テニスコート、バスケットコートなど、プロからアマチュアまで楽しめます。



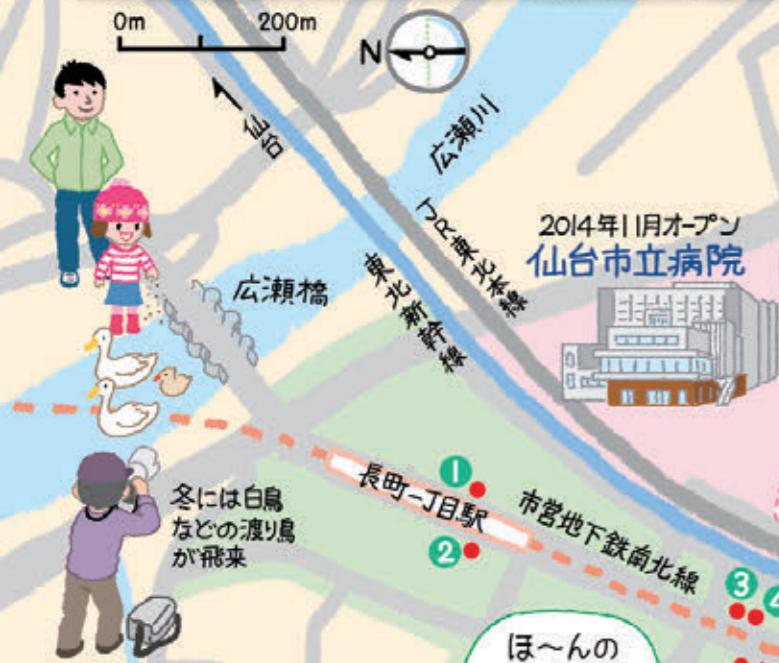
VOICE 2
スポーツタウンエリアを散歩中の親子
主人の転勤であすと長町に住んでいます。JRと地下鉄の駅も近いので、とても便利。IKEAもできたら、お買い物も楽しいです!



VOICE 3
長町商店街 連合会会長 大友 克人さん
(バイク店「モトライヴ・オート」経営)
長町商店街には約220のお店があります。あすと長町には大型店が続々とオープンしていますから、一緒にまちを盛り上げていきたいですね。



VOICE 4
長町駅前プラザ内、長町駅前商店街 振興組合の阿部 香朱美さん(左) ボランティアの守谷 美智子さん(右)
ここではバスを待ったり、ひと休んだり、誰でも自由に利用できます。町の交流の場にもなっています。



西 伝統! 長町商店街

レトロな個人商店が数多く残り温かみのある西側。店主との楽しい会話も魅力です。

各店に「店主の似顔絵」と「アピルポイント4コマまんが」あり!

1 大宮竹細工一丁目店

竹を割るところからご主人の手作り。ざるやかごがかわいい。米ときざる

2 沼田とうふ店

明治2年創業 5代目(!)女将のこだわりの味

3 豊年まんじゅう

創業60年。ユニークな大将の手作り。和菓子は優しい味

5 あいししいパン屋さん

とびきりおいしいのが「玄」の「天ぷらパン」! 注文を受けてから揚げるので衣はサクサク
あんこ クリーム

4 畑惣商店

オリジナルの「坊ちゃん石鹸」は安心のナチュラル素材

Pick up どうして「玄」?
先代が東北高校の売店で発売・大人気となり、毎日すぐに売り切れてしまい、食べられない生徒が続出したから!

いよいよ入居スタート 復興公営住宅

Power Into Tohoku! 2015冬オープン予定!

仙台PIT
1500人収容のライブ施設

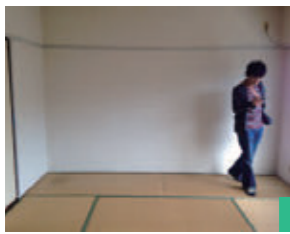
6 びすたーり 復興公営住宅

125年前の古民家を改装したレストラン。野菜たっぷりのイタリアンは優しい絶品の味
野菜は名取市のびすたーりファームで自家栽培!

Pick up 長町タウン情報誌「NEXT」

昨年4月に創刊したフリーペーパー。地元のプロスポーツの紹介や、おいしいお店探訪など発展する長町の情報が満載です。

人気ブロガーの 団地DIY術 ④



Before
入居当時の部屋
もともと量の部屋でした。

After 現在



キッチンと和室の間のふすまを取り外してリビングダイニングに。壁をペンキで塗り直し、畳の上にじゅうたんを敷いています。

自分で作れば、部屋のサイズや家族構成に合ったジャストサイズのダイニングテーブルに!

Living

Makeesさんのブログ「築50年の団地再生ライフ」
<http://palette.blush.jp/blog/>

「UR PRESS」オンライン版では関西在住のブロガー Kume MariさんのDIY術を紹介しています。「UR PRESS」で検索してください。

岡本太郎の東北

飯沢耕太郎 監修/毎日新聞社 1,400円

戦後の日本を代表するアーティスト岡本太郎は、日本文化の源流を求め東北へと旅立ちました。彼が撮影したエネルギーと躍動感に満ちた東北の写真は、僕らが忘れかけた日本人本来の姿を思い起こさせてくれます。



Mi amas TOHOKU

Kvina(クビーナ)×SHOE PRESS 1,000円

クリエイティブガールズユニット「kvina」が、「東北の素晴らしい姿を伝える」をモットーに掲げる編集プロダクション「SHOE PRESS」とともに作り上げた、東北の魅力を再発見するためのガイドブックです。

東北には河童や座敷童、神隠しなどの民話や説話などが数多くあります。農商務省の官僚だった柳田国男は、講演や農政調査などで東北地方をたびたび訪れ、こういった民話に触れることで民俗学に大きな興味をもつようになりました。そして遠野出身で口承文学の収集家である佐々木喜善と出会い、そのおもしろさに魅了され、「遠野物語」を執筆することになったのです。「遠野物語」には人間が未知なるものや自然の驚異と共存していくために生み出され

た民話が数多く収録されていて、これらからは東北の人々をはじめとする日本人に根付いた死生観や自然観をうかがい知ることができます。こういった考え方は今の日本人にこそ必要なものなのかもしれません。本書は、この歴史的名著を妖怪マンガの権威・水木しげるが漫画化したもの。100年前に出版された原著を、現代風により読みやすくユーモラスに描いた本作は、東北地方の風土や土着的な文化を学ぶための民俗学入門としても最適な一冊です。



水木しげるの遠野物語
水木しげる/小学館 1,238円

ブックセレクト
三田修平

みたしゅうへいブックディレクター。移动式本屋「BOOK TRUCK」で全国各地のイベントなどに参加するほか、2015年6月に本と日用品の店「三田商店」を横浜市内に開店。
<https://www.facebook.com/Booktruck>



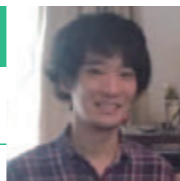
今号のテーマ

世界の扉を開く本 ④
東北再発見

団地をリノベーションすることで、自分らしい、心地よい暮らしを実現している東西の人気ブロガーが交替でDIYの楽しみ、ポイントを伝授します!

Blogger

Makees (関東在住 妻と子どもの3人暮らし)



ふすまを取り払って
開放感あふれるリビングに

日 当たりがよく、気持ちよい風がたくさん入ってくる、わが家のリビング。もともと3DKの間取りだったのですが、リビングを広く使いたかったので、ふすまを取り払って2LDKにし、広めのリビングとして使っています。

食事をしたり、テレビを見たり、おしゃべりをしたり……と家族が集まる場所なので、明るく元気が出る部屋にしました。

壁にはファブリックパネルやレコードを飾り、好きなモノがいつでも目に入るようにしました。ヨーロッパ(主に北欧)で昔からインテリアに使われてきたというファブリックパネルは、木製のパネルに布(ファブリック)を貼り付けたもの。ファブリックを変えるだけで手軽に部屋の雰囲気が変わるので便利です。

ダイニングテーブルは欲しいサイズのものが売っていませんでしたので、ウッドデッキ用の板とイケアの架台を使ってDIYしました。好きなものに囲まれた、快適なリビング空間になりました。

ベランダ菜園の楽しみ ④

たなかやすこ

今号のテーマ

おひさまが何より好きな
ミニトマト



強い日差しの下で元気いっぱいにつつま夏野菜の中でも、とりわけ生命力の強さを感じさせるのがトマトです。ベランダで毎年ミニトマトを育てますが、そのたくましさにはいつも感心させられます。トマトの原産地はアンデス山脈の高原地帯。朝と夜の気温差が大きく雨も少ない、土壌も肥沃とはいえ、植物の生育にとっては厳しい環境ですが、そこで生き残ってきたからこそ、トマトには強い生命力が備わっているのではないかと思います。

トマトの生育にとって、なんといっても大切なのは太陽の光です。夏野菜はみんな太陽が好きですが、トマト

は特にそう。どんなによい土を使って丹精込めて育てても、日光が足りないとヒョロヒョロに育ち、実付きも悪くなります。ミニトマトを育てたけれど実があまりならなかった、という人は、日当たりの問題があることが多いようです。栽培を始める前の準備としてベランダの日当たりを確認しましょう。朝昼夕とベランダに出て、1日を通してもっとも日が当たる場所を確認してください。

日当たりとともに大切なのが脇芽(主枝と葉の間に出てくる芽)摘みです。脇芽をそのままにしておくと養分が分散してしまうので、脇芽は小さいうちに摘み、主枝をしっかりと育てます。

夏の気温が32度を超えるようになると、いったん花が付かなくなり、葉にも元気がなくなります。一見もう終わりかな?と思わせる姿になりますが、それでも抜かずに残しておく、10月頃に再び花が咲き始め、晩秋まで収穫できます。

たなかやすこ
イラストレーター、ガーデニングクリエイター。
1957年北海道小樽市生まれ。著書に「とれたての幸せ。はじめてのベランダ菜園(集英社)、『おいしいベランダ菜園 シンプル&エコに育てる』(家の光協会)ほか。



育ててみよう

cultivation

ミニトマト

ミニトマトの苗は5月になると出回ります。苗に一番花が咲いていたら植え付けのタイミング。コンテナに移して日当たりのよい場所に置きましょう。トマト用の培養土がおすすめです。

Step

1 コンテナに鉢底石を敷き、培養土を入れてポットから苗を植え付け。苗に一番花が付いていない場合は、花が付くまでポットのまま日当たりのいい場所にしばらく置いておく。あまり早く植え付けると葉ばかり茂って実付きが悪くなる。



花芽とは別に出てくる脇芽。

Step 2

脇芽をこまめに摘む。畑で栽培する場合は通常、一番花から下の脇芽を摘むが、コンテナの場合は出てくる脇芽はすべて摘むのが基本。

Step 3

支柱は必ず立てる。人の背の高さ程度になったら摘芯する方法もあるが、ベランダでは摘芯せずに、洗濯物干しやパーゴラに誘引して育てるのがおすすめ。



支柱を立てて育てる。8月、ぐんぐん伸びて真っ赤な実を付ける。

9月半ば、摘芯しないと長く伸びていくので、ベランダの物干しやパーゴラに誘引する。



UR都市機構からのお知らせ

INFORMATION

隈研吾氏、佐藤可士和氏を迎え「団地の未来プロジェクト」始動

昭和30（1955）年に発足した日本住宅公団の時代から60年。いま、あらためて団地の価値を見つめ直し、団地に新しい時代の輝きを与え、より良い住まい方と地域のあり方を創造する「団地の未来プロジェクト」がスタートしました。

このプロジェクトは、ディレクターアーキテクトに世界的建築家である隈研吾氏、プロジェクトディレクターに日本を代表するクリエイターである佐藤可士和氏を迎え、横浜市の洋光台団地をモデルエリアとして動き始めています。平成28年度中をめどに成果を上げ、その後、他の団地に広げていく予定です。

今後のプロジェクトの進行は、本誌でも取り上げる予定です。どうぞご注目ください。



3月26日に記者発表が行われた。



UR都市機構は東北各地にPR館を開設しています

北各地の復興の今をお伝えするUR都市機構のPR館。東北にお越しの際にはぜひ足をお運びください。



山田町震災復興事業案内所 山田町大沢地区震災復興事業案内所 (PR館) 南三陸復興まちづくり情報センター

		正式名称	住所	電話番号	営業時間	定休日
岩手県	山田	山田町震災復興事業案内所	下閉伊郡山田町八幡町2-5	-	10:00~16:00	水
		山田町大沢地区震災復興事業案内所 (PR館)	下閉伊郡山田町大沢6-3-3	-	10:00~16:00	土・日・祝日
	陸前高田	陸前高田復興まちづくり情報館	陸前高田市高田町字古川地内	-	9:00~17:00	-
宮城県	気仙沼	鹿折地区まちづくり情報館	気仙沼市新浜町1-3	-	9:30~16:30	-
		南気仙沼地区まちづくり情報館	気仙沼市仲町2-1	0226-25-7897	9:30~16:30	土・日・祝日
	南三陸	南三陸復興まちづくり情報センター	本吉郡南三陸町志津川御前下28-8	080-9501-8076	10:00~16:00	日・月
福島県	女川	復興まちづくり情報交流館	牡鹿郡女川町女川浜字大原480-36	0225-50-1072	10:00~16:00	年末年始
	東松島	野蒜北部丘陵地区 展示室	東松島市野蒜字亀岡62-1	0225-98-4425 (要予約)	9:30~17:00	土・日・祝日
福島県	いわき	薄磯PRルーム	いわき市平薄磯小塚	-	8:30~17:00 (土曜は16:30迄)	日・祝日
		豊間PRルーム	いわき市平豊間原町75	-	8:30~17:00 (土曜は16:30迄)	日・祝日

From Editors

陸前高田での取材が終わり、矢沢永吉さんのことが大好きな大将がいる飲食店に行きました。東日本大震災後、お店を再開させるかどうか迷った時、「やらなければゼロだけど、やれば永ちゃんがお店に来てくれる可能性が少しでも出てくる」と思い奮起した、というお話を伺いました。思いが通じてか、なんと矢沢永吉さんがお店に来てくれたそうです。東北の皆さんは、いろいろな思いをモチベーションに変え、前に進まれています。今回の取材では、たくさんの方の笑顔に出会うことができました。(UR都市機構・広報担当M)

次号のお知らせ

「UR PRESS」42号は2015年7月末発行予定です。お楽しみに！

「UR PRESS」オンライン版もお楽しみください！

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS で 検索 
<http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>

URのツイッター

UR都市機構のツイッターでは、イベント、キャンペーン、募集情報などをタイムリーに発信しています。こちらぜひアクセスして、最新の情報をゲットしてください。
https://twitter.com/UR_TOSHIKIKOU/



プレゼント付きクロスワードパズル

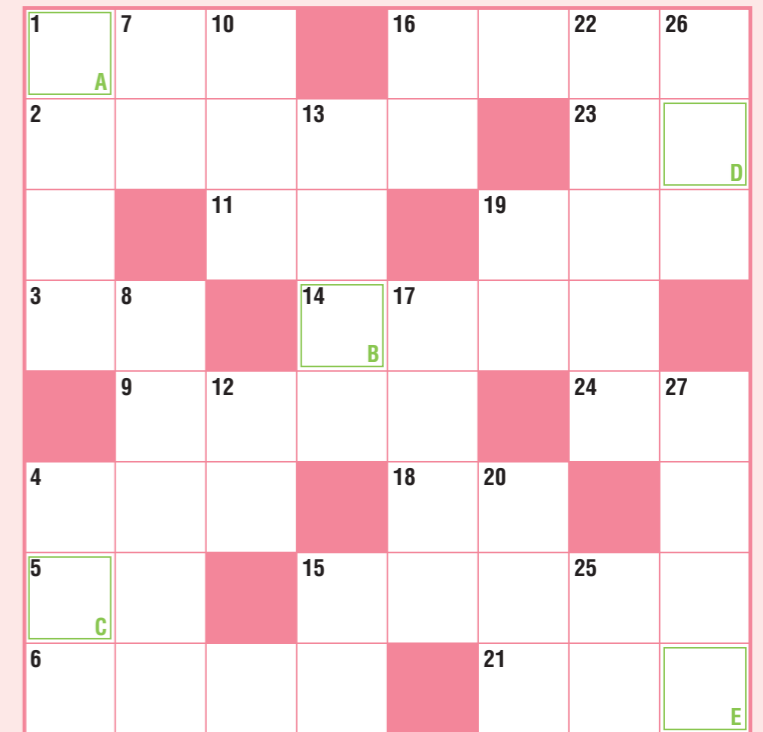
パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- 風邪予防や、花粉よけに毎日身に着けているという人も
- こんなに筋肉が腕についているよ、と見せつけたりする
- 観察や実験をする教科
- ジェラシーを感じる。——そねみ
- アルファベットの2番目
- ちゃきちゃきの——だから、気が短いんだ
- 外国人にも有名な和食の定番。牛肉を使うのが一般的
- 奇——偶——自然——
- 「最近、——はどうだい?」「まあまあかな」
- のように過去の思い出が去来した
- あなたの脚、——のようにすりりとしているわね
- 自由に使える時間
- 声のこと。ハスキー——
- 彼は——の中で一番の出世頭なんだ
- これをむかぬとゆで卵は食べられない
- 球場や議会で飛び交うもの

タテのカギ

- 裁縫で、布がずれないように打ちます
- ちゃんと布団を掛けないと——するよ
- はずれのこと
- クリームが入ったシュークリームが好きなんです
- 替えがあって、友だちとはなればなれになっちゃった
- 月見うどんの月の部分
- レモンを入れたりミルクを入れたり
- 備蓄していたものがなくなることを——を突くと言います
- 券 ——主
- 披露宴の——で、新婦の友人が歌を歌った
- 藪から——に何を言うんだい、びっくりしたよ
- 煮炊きをする設備
- 人気のお笑い芸人がクイズ番組の——を務めるらしい
- とって高い建物
- 「鳥」から一本取るとこの鳥になる
- S L = ——機関車



プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT

1 「みなとまちセラミカ工房」のマグネット 5名様

「スペインタイルを復興のシンボルに」を合言葉に、宮城県女川町では震災後、地元の人々によってスペインタイルが制作され、住宅や街角のサインなどに使用されています。このスペインタイルのマグネットをプレゼント。

PRESENT

2 浦霞「蔵の華」1名様

宮城県塩竈市で江戸時代から続く蔵元・佐浦が醸造する日本酒「浦霞」。この宮城県内限定の純米吟醸酒「蔵の華」は、まるやかで上品な味わいの銘酒です。

PRESENT

3 『団地を楽しむ教科書 暮らしと。』10名様

東京R不動産とUR都市機構が作った、現代の団地を楽しむための本。団地の環境に始まり、いろいろな部屋や暮らし方、コミュニティのありようなど、豊富な写真で団地の魅力を紹介しています。

*ご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

●応募締め切り

2015年9月30日(当日消印有効)
 当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

